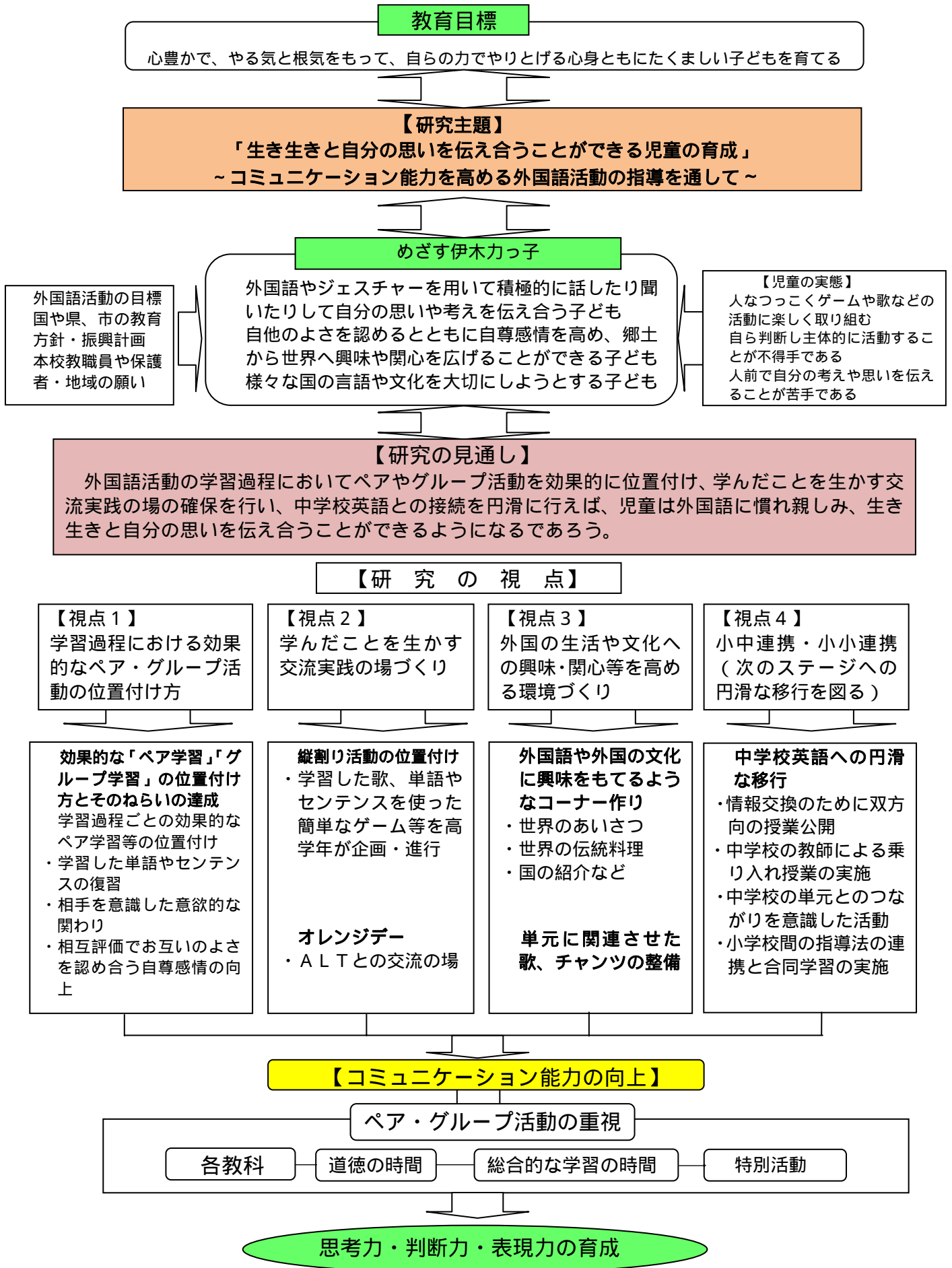


1 研究全体構想・研究主題等について

(1) 研究全体構想



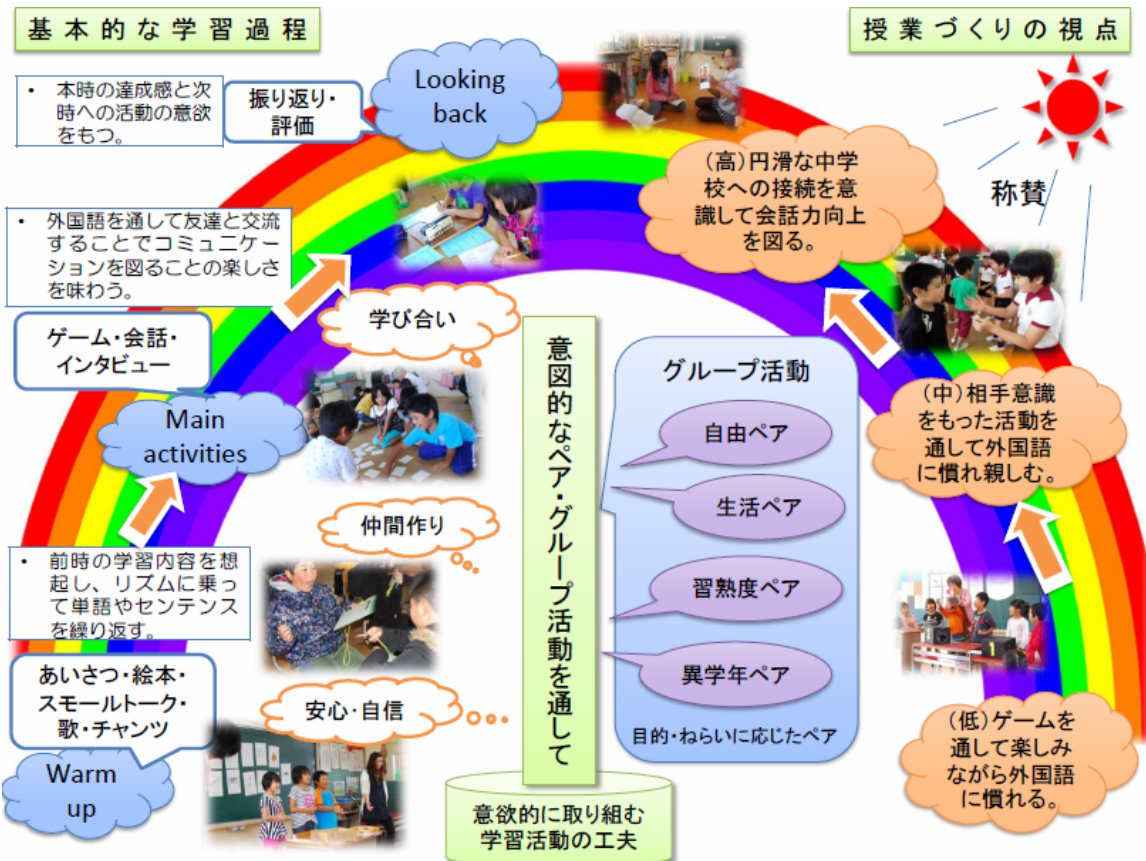
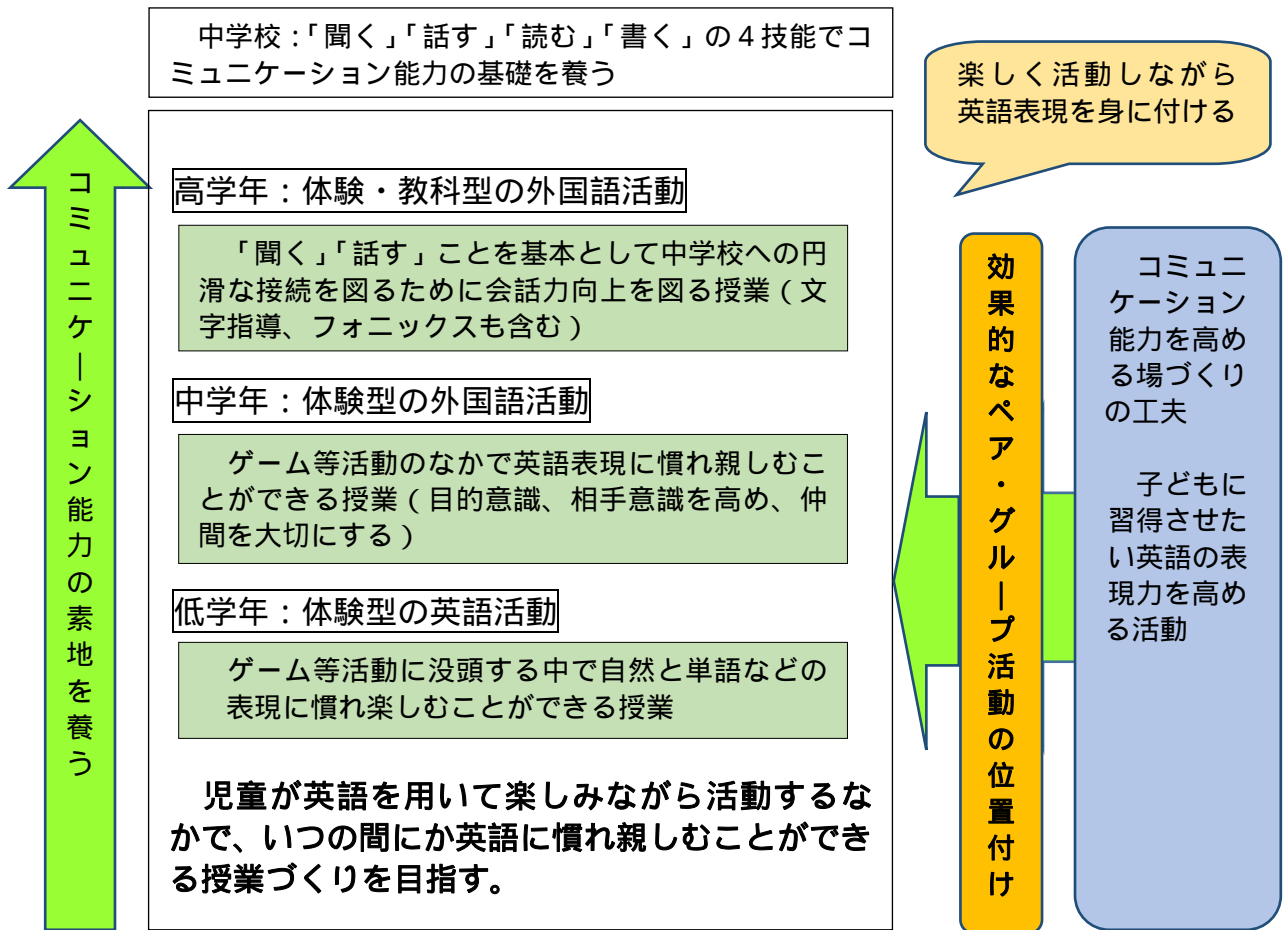
(2) 評価観点ごとに目指す児童像

	コミュニケーションへの関心 ・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する気付き・理解
5 ・ 6 年	<p>相手の話を聞いたり、自分の気持ちや考えを伝えたりする活動を通して、進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども</p> <p>相手の話に<u>反応しながら</u>(うなずき、簡単な英語、繰り返し称賛)聞いている。 相手の<u>反応を確かめながら</u>、言葉やジェスチャー、言い換えなどを使って自分の気持ちや考えを話している。 Big voice, Eye contact Smile, Reaction</p>	<p>身近な英語表現を聞いて相手の伝えたいことを理解するとともに、身近な英語表現を用いて自分の気持ちや考えを伝えようとしている。</p> <p>アルファベットや簡単な単語を読むことや、アルファベットを書くことに慣れ親しみ、英語を読むことや書くことに興味をもっている。</p>	<p>外国語と日本語の音声やリズムなどの違いを知り、言葉のおもしろさや豊かさに気付く。</p> <p>外国の生活、習慣、行事、文化などに触れ、多様なものの見方や考え方があることに気付き尊重しようとしている。</p>
3 ・ 4 年	<p>簡単な英語や会話を通して、進んでコミュニケーションを楽しむ子ども</p> <p>相手の目を見て、うなずいたり、簡単な英語で反応したりしながら聞いている。 自分の気持ちや伝えたいことを相手に<u>伝わるように</u>(目を見て、元気な声で、表情やジェスチャーを交えて)<u>進んで</u>話している。 Big voice, Eye contact, Smile (Reaction)</p>	<p>外国語の音声の特徴や身近な英語表現、簡単な会話文に慣れ親しみ、進んで会話をしている。</p>	<p>外国と日本の言葉や生活、習慣、行事、文化などの違いに触れ、似ているところや違うところがあることに気付いている。</p>
1 ・ 2 年	<p>身近な英語に興味関心を持ち歌やゲームを通して英語や友達と触れ合うことを楽しむ子ども</p> <p>相手の目を見て、うなずきながら聞いている。 簡単な英語を相手の目を見て元気な声で話している。 Big voice, Eye contact, Smile</p>	<p>簡単な単語や音声に慣れる。</p>	<p>外国の行事や習慣に触れ、外国の文化に気付いている。</p>




(注) Big voice, Eye contact, Smile, Reaction は、双方向のコミュニケーションを支える大切な基本スキルと位置付け、学習を振り返る際の自己評価項目の一部とする。

(3) コミュニケーション能力を高める授業づくりの工夫

【外国語活動（英語活動）で目指す授業】







(4) 基本的な学習過程 (H R T のみの授業)

過程	学 習 活 動	基本的な指導のねらい
<p>Warm up</p> 	<p>挨拶をする。 T : Hello (good morning), everyone. How are you? C : I'm fine. 前時の学習内容を想起して、単語やセンテンスを繰り返し、本時のねらいの達成に必要な活動を行う。 例 ・ スモールトーク (small talk) ・ 歌を歌う (sing a song) ・ チャンツ (chant) ・ 絵本の読み聞かせ (reading a book)</p>	<p>児童が、意欲的に学習することができるよう、場の雰囲気高める。 スモールトークや歌、チャンツなどで学習活動への意欲を高めるとともに、学習した単語や既習のセンテンスなどの復習を兼ねる。 場合によっては読み聞かせを行い、学習活動を始めようとする意欲を高めさせる。 スモールトークやチャンツでペアやグループ活動を位置付け、既習の単語やセンテンスの定着を図る。</p>
<p>Main activities</p> 	<p>めあて (Today's goal) を確認する。</p> <p>学習活動の内容や方法をつかむ。 ・ ゲーム ・ インタビュー活動 (会話) 等</p> <p>活動を楽しみながら、外国語と日本語の違いに気付く。(気付き)</p> <p>活動を楽しみながら、外国語の発音やセンテンスに慣れ親しむ。 (慣れ親しみ)</p> <p>外国語を通して、友達と交流することで、コミュニケーションを図ることの楽しさを感じる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)</p> 	<p>本時のめあてを確認するとともに、コミュニケーションの基本的なスキル (観点) を用いるよう意識させる。 ・ Eye contact Smile Big voice Reaction インタビューでは、活動の前後に挨拶を入れるよう指示するとともに、自分なりの反応を行い、相手意識や目的意識をもたせる。 例 I see. Me, too. OK! Good! インタビュー等の活動では、児童が会話を支える基本的なセンテンス (尋ねることや答える内容等) を確実につかめるよう、教師が説明する。</p> <p>他教科等での学習内容や学校行事等と関連させた活動や題材を取り入れ、会話を楽しむことができるようにする。</p> <p>活動のなかで、教師がペア活動を注視し、適宜、活動のよさを見取り、そのことを全体に広げることで、本時のねらいに近付けるようにする。</p> <p>繰り返し会話を楽しむことができるよう、相手を代えながらインタビューを継続できるようにする。 ゲームやインタビューの活動においては相手意識をもたせてコミュニケーションを図ることができるよう留意する。 本時のめあてや活動の目的に沿って、ペア活動やグループ活動を工夫していく。</p>
<p>Looking back</p>	<p>本時の学習を振り返る。 終わりの挨拶をする。 C : Thank you, 先生. T : Thank you, everyone. See you next time.</p>	<p>振り返りカードで評価させ、互いの評価をペアやグループ、全体で紹介する。 児童の活動を称賛し、本時の達成感と次時への意欲をもたせる。 終わりの挨拶をして次時への活動につなげさせる。</p>

(5) A L T 活用の実際

本校では、A L T が隔週水曜日に、全学年で T ・ T として指導にあっている。授業の打合せは朝の始業前のわずかな時間だが、カリキュラムに沿って学級担任（H R T）が活動と役割分担を説明したり、A L T からお薦めのアクティビティーを教えてもらったりしながら授業に臨んでいる。

A L T の活用としては、スモールトークで児童と会話したり、単語やセンテンスの発音のモデルとなったり、ゲームやインタビュー活動のデモンストレーションを H R T と行ったりしている。また、活動中の児童の様子を評価してもらうことで、児童の励みとなり、外国語への自信につながっている。

A L T の活用例	
学習過程	支援（補助指導）内容
<p>Warm up</p> 	<p>あいさつをする。 歌を歌う。 ・ネイティブの発音を聞かせる。 単語の発音練習をする。 スモールトークをする。 ・既習センテンスの練習 ・曜日や天気などの簡単な質問に答えさせる。 A L T と H R T がモデルトークをする。 児童に学習内容や本時のめあてをつかませる。 チャンツ等で発音の練習をする。</p> 
<p>Main activities</p> 	<p>ゲームの方法を説明する。 ・ゲームの相手役をする。 ・単語やセンテンスのネイティブの発音を教える。 ゲーム途中で発音の仕方を教える。 児童の活動の手本を見せる。 児童の活動や発音を称賛する。 A L T と H R T でデモンストレーションを行う。 ・語順やジェスチャーの大切さに気付かせる。 ・児童の学習意欲を高める。 難しい発音についてアドバイスする。 教材を活用した「聞く」活動のなかでサポートする。 ・A L T の発音にも慣れさせる。</p> 
<p>Looking back</p>	<p>児童のよさを称賛する。 学習の感想を話す。 児童に自信をもたせ、学習意欲を高める。</p> 

2 研究成果

(1) 小・中9年間のつながりを意識した授業づくり

双方向の授業公開、3校の連絡協議会・英語担当者会を定期的実施することで、情報交換や指導方法の相互理解、教材・カリキュラムの共有化を図ることができた。中学校外国語科担当教諭による小学校への乗り入れ授業を4回実施した。中学校外国語科教諭のフォニックスによるアルファベットの発音練習を取り入れた授業、また、中学校教科書「NEW HORIZON」を活用した指導を工夫することで、「読むこと」「書くこと」や中学校外国語科への興味・関心を深めることができた。さらに、入学説明会で2小学校合同の中学校英語体験学習を行うことで、交流を深めると共に中学校での英語学習のイメージを持たせることができた。

中学校教科書「NEW HORIZON」と小学校教材「Hi, friends!」の単元やセンテンスのつながりを明確にすることで、中学校外国語科への円滑な移行を意図したカリキュラムの手直しや実際の指導を行うことができた。

外国語活動を通して、いつか英語を使って外国の人とコミュニケーションを取れるようになりたいと思う児童が7割を超え、「他者と関わりたい」という思いを深めるなど、目的意識をもって外国語活動に取り組ませることができた。

(2) 学習過程における効果的なペア・グループ活動の位置付け方

<授業づくりの視点>

各学年の発達段階を考慮した授業づくりの視点に沿って外国語活動（英語活動）に取り組んだ。

（低）ゲームを通して楽しみながら英語に慣れる。

（中）相手意識、目的意識を通して外国語に慣れ親しむ。

（高）円滑な中学校への接続を意識して外国語による会話力向上を図る など。

<異学年ペア・グループ>

習熟度の異なる異学年ペア（1年・2年）による活動を位置付けることで、すべての児童が安心して何度も英語を声に出すことができ、笑顔で楽しく英語に慣れ親しむ活動ができた。

上学年（2年生）は下学年（1年生）に対して責任感と自覚が生まれ、お兄さん、お姉さんという立場を意識して模範となるよう取り組むことができた。また、下学年の頑張りを認め、称賛することで下学年も自信をもって活動することができた。

<習熟度ペア・グループ>

外国語活動におけるコミュニケーションが得意な児童と苦手な児童がペアを組むことで、ペアやグループ内で友達のよさを評価し、自分も活かそうとする姿が見られた。そのことから、習熟度を意識してペア活動を取り入れることはコミュニケーションへの関心・意欲・態度を高める点で効果的である。

(3) 交流実践の場づくりと学習環境づくり

<交流実践の場づくり>

縦割り活動において、英語を使ったゲーム等を行うことで、異年齢の友達と積極的に関わったり、学習した英語表現を使ったりして、実践意欲を高めることができた。オレンジデーでは、外国の方に対する抵抗を感じることなく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする様子が見られた。日頃の外国語活動の積み重ねの成果が現れたといえる。事前に縦割り活動で、グループの旗作り、名札作り、ゲームの説明と練習などを行い、当日の様子をイメージすることができていた。振り返りカード

には、多くの児童が「楽しかった」と記入し、「もっと英語が話せるようになりたい」と外国語に対する意欲を表した児童もいた。

<学習環境づくり>

校内に朝の挨拶や気分の言い方、階段に数字や色、月の言い方などの基本的な英語表示を掲示した。児童は日常的に興味をもって見たり、階段を上がりながら英語を発音したりするなどの姿が見られた。

教室前面にコミュニケーションの基本スキルを常時掲示することで、活動の際の意識付けや振り返りの視点を児童に示すことができた。

授業で使用する絵カードには絵と英語の綴りをセットにして提示した。学習するセンテンスについても英語の綴りを提示するようにした。アルファベットを学習していない児童も文字を手掛かりに発音する場面が見られた。音と文字、絵と文字など様々な感覚から児童に働きかけていくことは大切である。

3 今後の課題

(1) 小中連携の授業づくりにおいて

「読む・書く活動」を小学校でどこまで取り入れていくのか、中学校外国語科教諭と連携を取りながら指導内容を精選していく必要がある。

「CAN-DOリスト」をもとにした授業をどのように具体化するのかなど、中学校と連携して研究を深める必要がある。

夏季休業日も利用し小中合同授業等の打合せを行ってきたが、各学校間での時間調整は難しかった。短時間で済ませるための方法を考える必要がある。

(2) 他教科等でのコミュニケーション能力の育成に関して

話し合う際の話型の定着がまだ十分ではなく、根拠を述べる言い方や違う意見を述べる言い方に不慣れな様子も見られた。外国語活動でのコミュニケーション能力の向上をもとに、相手に伝わるように話したり、相手の考えや話を大切にしながら聞いたりするなどの話型・聴型の指導が今後も必要である。

外国語活動で育まれるコミュニケーション能力と他教科等で育むべきコミュニケーション能力の関連を整理し、研究主題に掲げた児童の育成に取り組む方策を追究していく必要がある。